

金沢大学法務研究科
2016年度「法理学」小テスト
6月29日1限実施/試験時間：60分/出題：足立英彦
解答・解説

1. つぎの論証（推論）が妥当であるかどうかを真理表を用いて説明しなさい。（各3点）

(a) $A \rightarrow B$ したがって $(A \wedge C) \rightarrow B$

解答

			前提		結論
A	B	C	$A \rightarrow B$	$A \wedge C$	$(A \wedge C) \rightarrow B$
1	1	1	1	1	1
1	1	0	1	0	1
1	0	1	0	1	0
1	0	0	0	0	1
0	1	1	1	0	1
0	1	0	1	0	1
0	0	1	1	0	1
0	0	0	1	0	1

この推論において、前提が真の場合は1, 2, 5, 6, 7, 8行目であり、そのあらゆる場合に結論は真となっている。したがって、この推論は論理的に正しい。

(または、「この推論において、前提がすべて真の場合は1, 2, 5, 6, 7, 8行目であり、そのあらゆる場合に結論は偽となっていない、すなわち、この推論には反例がない。したがって、この推論は論理的に正しい」でも可。)

解説 文章による説明も必要。真理表のみ正しい場合は1点。

(b) $A \wedge \neg A$ したがって B

解答

		前提		結論
A	B	$\neg A$	$A \wedge \neg A$	B
1	1	0	0	1
1	0	0	0	0
0	1	1	0	1
0	0	1	0	0

この推論において、前提が真の場合はない。したがって、前提がすべて真で結論が偽になる場合、すなわち反例もない。したがって、この推論は論理的に正しい。

2. 次の英文を論理式に翻訳せよ。ただし次の解釈を用いること。(各1点)*¹

Sx: x wears sneakers. Jx: x wears jeans. Ax: x is an artist.

(a) Every artist wears jeans.

解答 $\forall x(Ax \rightarrow Jx)$

(b) No artist wears sneakers.

解答 $\forall x(Ax \rightarrow \neg Sx)$ または $\neg \exists x(Ax \wedge Sx)$

(c) Someone is an artist wearing jeans.

解答 $\exists x(Ax \wedge Jx)$

3. 「たばこを吸うことを禁じる」を「命じる」「許可する」という語を使って言い換えなさい。(2点)

解答 「タバコを吸わないことを命じる。」「タバコを吸うことを許可しない。」

4. 禁止を定める規範と命令・作為許可・不作為許可・自由・不自由を定める規範との関係の名称を書きなさい。(5点)

解答 禁止(を定める規範)と命令・自由は反対の関係にある。禁止と作為許可は否定の関係にある。禁止は不作為許可と不自由を含意する。

5. 可能世界の整合性とは何か?(2点)

解答 ある世界で成り立っている出来事を表現する諸命題がすべて真になる場合があるということ。そのような場合があればその世界は整合的であり、そのような場合がなければその世界は非整合的である。それぞれの可能世界は整合的であることが前提される。

解説 「可能世界が矛盾を含んでいないこと」「 p と $\neg p$ の両方が可能世界で成り立つようなことはないこと」*²でも可。

6. OV , PV を, 義務様相を用いなくて言い換えよ。(2点)

解答 現実世界 w において OA が真であることは, w から到達可能なすべての理想世界において A が真であることと同じである。現実世界 w において PV が真であることは, w から到達可能な理想世界のうちの少なくともどれか一つにおいて A が真であることと同じである。

7. 現実世界を最善と思っている人にとっての OA , $O\neg A$, PA , $P\neg A$ の真理値は?(2点)

解答 左より真, 真, 偽, 偽。

解説 現実世界を最善と思っている人にとっては, その現実世界から到達可能な理想世界はない。到達可能な理想世界がなければ A である (A が真の) 理想世界も当然ない。したがって PA は偽, $\neg PA$ (これは $O\neg A$ と同値) は真である。到達可能な理想世界がなければ A でない理想世界も当然なく, したがって $P\neg A$ は偽, $\neg P\neg A$ (これは OA と同値) は真で

*¹ 戸田山和久『論理学をつくる』(名古屋大学出版会, 2000年)116-118頁練習問題より出題。

*² 三浦俊彦『可能世界の哲学』(NHKブックス, 1997年)68頁。

ある。

8. a が b に対して G について不自由であるときの b の地位は？ (2 点)

解答 「b は a に対して G をすることを求める権利を有している, または G をしないことを求める権利を有している。」

解説 「または」を明記していなければ 1 点減。

9. 憲法上の自由権と物権の相違 (同じ点と違う点) を説明せよ。(6 点)

解答 憲法上の自由権と民法上の物権は, 両者ともに自由権であるという点で, すなわち, 作為と不作為がともに許されているという意味での自由と, その作為と不作為を妨害しないよう相手方に求める権利とから構成される法的地位である, という点では同じである。相違は, 憲法上の自由権の主体は不特定の者 (国民又は人一般) であり, その名宛人は特定の者 (国) であるのに対して, 物権の主体は特定の者 (物を支配する人) であり, その名宛人は不特定の者 (物権の主体以外の人) である, という点にある。

参考情報 (7 月 6 日現在)

履修登録数	受験者数	平均点
4	4	23.5

29 点 1 名